

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年12月19日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871100178		
法人名	株式会社 ユニマットそよ風		
事業所名	水海道ケアセンターそよ風	ユニット名	さくら
所在地	〒303-0034 茨城県常総市水海道天満町1785-1		
自己評価作成日	平成25年7月30日	評価結果 市町村受理日	平成25年12月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0871100178-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年9月19日	評価機関 決裁日	平成25年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>理念に掲げている通り、「地域の人と暮らす 大好きなこの町 水海道で」を基に利用者様に支援させていただいております。</p> <p>開設当初より、町内会に加入し、地域との交流を活発に行っております。正月には獅子舞に健康を祈念し年の初めを祝い、7月の祇園祭には子供神輿や山車がホームの裏通りまで来て下さり、馴染みの慣わしの見物を行っております。</p> <p>利用者は、子供達の元気なかけ声に元気をもらい、いつも以上に笑顔になって楽しませております。</p> <p>伝統芸能が引き継がれているこの町で暮らすことを今後も支援してまいりたいと思っております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者と職員は連携を図りながら利用者一人ひとりの介護計画にそった支援に取り組んでいるが、支援が困難なケースではセンター長の意見やアドバイスを得ながら支援をしている。</p> <p>介護福祉士や社会福祉士などの資格取得を推奨しているほか、毎月「感染症」や「接遇」などのテーマを決めて勉強会を実施しており、職員の資質の向上に努めている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人と暮らす 大好きなこの町 水海道で」をグループホーム理念として掲げ、職員間で共有し地域の方々とのふれあいや交流を大切に支援している。また、利用者とは日々の生活の中で理念について話す機会を設けている。	「地域の人々と共に暮らす大好きな町水海道」を理念に掲げ、利用者が生まれ育った地域でその人らしく暮らし続けられるよう支援をしている。 地域の祭りや外出した機会に、利用者が地域の人々とふれ合えるよう支援をしている。 職員会議で理念について話し合い、共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の中には町内より入居されている方もおり、ご近所の方や友人が時々訪ねて来られる。また、町内の飲食店より出前を頼んだり、外食に出かける等を行い、食べる事も楽しみの一つとなっている。	民謡や舞踊などの地域のボランティアが来訪しているほか、年1回程度近隣の保育園児が来訪し、利用者との交流を図っている。 正月には獅子舞、7月の祇園祭には子供神輿や山車が事業所の裏の通りまで来てくれており、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催時等で認知症の方への理解が得られるように周辺症状や中核症状について具体的にお話をさせて頂き、支援の方法もお伝えするようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催し、前月・当月のサービス内容及び利用者の健康状態や地域参加報告、更に外部評価が行われた際にはその取組状況、結果報告を行い、参加者よりご意見を頂いている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の状況や事業所の活動状況を報告したり、委員からの質問に答えたりしている。 家族等の代表から要介護度の高い利用者の外出や外食に関する質問を受け、利用者の負担にならないよう、要介護度が高い利用者の場合は近隣をドライブしたり、外食の代わりに出前を取ったりして食事を楽しめるよう配慮していることを報告している。 運営推進会議終了時に次回の開催日を伝えているが、限られた委員のみの参加となっている。	運営推進会議で幅広い意見が得られるよう、民生委員や老人会の代表、地域住民の代表など、多くの人々に参加を呼びかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者が明確になっていることで、以前よりも相談業務が行いやすくなった。利用者の健康状態が悪化した際や入居前の受け入れについて等相談に乗っていただいている。	市担当者に事業所の運営状況を報告したり、医療行為が必要となった利用者の対応を相談したりしている。 市担当者が2ヶ月に1回来訪しており、その機会に生活保護を受給している利用者の生活状況や事業所の運営状況を報告したり、情報交換や相談をしたりしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居契約時に身体拘束をしない取組みを実践しているを契約者に説明している。身体拘束の具体的な行為に関しては正しい理解が得られるよう、職員間でも研修を行っている。また、日々の業務の中でも身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束ゼロへの手引きで職員研修を実施するとともに、年2回「身体拘束廃止、高齢者虐待防止委員会」を開催して身体拘束をしていないか点検し、身体拘束をしないケアに努めている。 事業所は2階部分にあるため、危険防止のために家族等の承諾を得たうえで階段の入り口を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、職員はマニュアルを基に定期的に研修を行っている。利用者が生活する中で職員は「気付く」ことを意識するようにし、気付いたら職員は一人で抱え込まずに、上司に相談することを伝えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に権利擁護の制度を活用されている方がいる。入居時に担当者と綿密な話し合いをさせて頂き、利用者が安心して暮せるよう、管理者は職員全員に制度の必要性を説明している。また、利用者が気持ち良く生活出来るように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明に理解が得られるよう、声のトーンや話す速度などに配慮し、不明な事がないかその都度伺いながら、納得していただけるように時間をかけて行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日常生活の中で意見があった場合、家族からは面会時等に意見や要望等が伺えるよう、職員は積極的に話しかけ、会話の中から何か得られるように働きかけている。また、運営推進会議には家族が必ず参加しており、意見交換を行い運営に反映させている。	運営推進会議に家族等の代表が交代で参加しており、その機会に意見交換を行っている。 年2回開催する家族会では、事業所への感謝の言葉は聞かれるものの、運営に関する意見や要望を汲みあげるまでには至っていない。	年2回開催している家族会時に無記名のアンケートを実施するなど、利用者や家族等の意見を汲みあげるとともに、出た意見等を運営に反映させることを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月グループホーム会議が開催されており、業務改善やケアカンファレンスが行われている。職員間で活発な意見交換がされ、新たな提案等があった場合には、その提案が反映できるように援助している。	毎月職員会議を開催し、職員の意見や提案を話し合っている。 職員は日頃から率直な意見や提案をセンター長や管理者に伝えている。 センター長は年2回職員との面接の機会を設け、職員の意向の把握に努めるとともに、出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート、契約の雇用形態の職員に契約更新制度があり、契約期間満了前に面談を行い、継続の意思を確認し、勤務状況良好の者には職種ごとの評価チェック表を基に給与の見直しがされる。社員登用制度が年2回あり、正社員は人事考課制度により給与の見直しがされている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は毎月実施されている。その他に、外部研修は職員の経験年数により内容を選択し、なるべく多くの職員が学べるよう、育成に力を入れている。社内研修は、随時行うこともある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県内には系列の10ヶ所の事業所があり、内7ヶ所の事業所がグループホームを運営している。毎月協議会として集合し、サービスの質の向上について会議を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者一人ひとりの生活歴をより詳しく把握するために入居時に【生活歴シート】をご家族様に記入して頂いている。また、入居後の生活で楽しみごとや得意なことに取り組んでいただけるように支援している。コミュニケーションを多くとるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には入居後数日が経過した段階で、ホームでの生活の様子をお伝えするようにしている。身体状況等で新たなことがわかった際には自宅での様子を更に確認し、利用者の状態把握に努めている。家族の面会時には、職員からの積極的な話しかけで良い関係が築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後一定の期間は利用者の状況把握と関係作りのために、支援経過を細かく取るように義務付けている。利用前の実態調査で把握できなかった事柄に関しては、家族に確認し、必要があればサービスの提案をさせて頂いている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の希望に沿った援助を心がけ、利用者からの学びを日々の生活に活かすとともに、常に感謝の気持ちを言葉で伝えるなど、互いに支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた際は、笑顔でお迎えし必ずコミュニケーションを図るように心掛けている。会話の中で利用者の生活状況等を伝え、職員は家族と一緒に利用者を支えていく関係作りが行えるように働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や老人会の方々が面会に来られた際、職員は歓迎しているという気持ちが伝わるよう笑顔でお迎えし、利用者の居室でゆっくりお茶を飲み会話をしている。また、親戚や友人に電話などを利用して連絡が取れるように援助している。	近隣に住む利用者の友人が来訪しており、職員は居室でゆっくり過ごせるようお茶を出して歓迎し、馴染みの関係が継続できるよう支援している。 馴染みの理・美容師に来訪してもらい、散髪ができるよう連絡や日程の調整をしている。 市内の飲食店から出前を取ったり、外食に出かけたりしており、それぞれの店とは馴染みの関係を築いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や社交性を踏まえ、気の合う仲間ができるように職員が間に入り、話すきっかけを作ったりしている。利用者の中には以前からの知り合いだったり、同級生だったりした事が、長い年月を経て解った方もいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院となり、ホームに戻る事が困難になった場合でもそよ風に戻りたいという希望が多く、ご本人の容態が安定したら、いつでもご相談に応じられる体制があることを家族にお伝えし支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で本人の希望や意向等を引き出せるように、職員は常に利用者に寄り添い、些細なことでも聞き逃さぬよう心がけ援助を行っている。また、本人が自己決定出来るような場面を作り、それを支援している。	職員は日々の暮らしの中で利用者に寄り添い、利用者の行動や会話から思いや希望、意向を把握している。 思いの表出が難しい利用者の場合は、表情や行動から利用者本位に考えて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族やケアマネージャーから生活習慣に関する情報収集をしっかりと行い、職員間で情報を共有し、利用者一人ひとりがこれまでの生活を維持できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者全員がホーム中心の日課に添って生活するのではなく、個々のペースに職員が合わせることで、穏やかな生活を送っている。全利用者が高齢であるため、できる事やできない事など個人差が大きいのが個々の有する能力を引き出すことに心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なケアカンファレンスの他、利用者の状態が変化した場合にも随時カンファレンスを開催し、現状に即した介護計画を作成している。カンファレンスでは職員個々の「気付き」を尊重して、意見の出しやすい場を作ることに努め、介護計画に活かしている。	利用者毎の担当職員や家族等の意見を参考に、計画作成担当者が介護計画を作成している。 介護計画は3ヶ月毎に見直すとともに、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日その日の小さな変化でも口頭で申し送りし、個人記録に残して職員間で情報共有している。職員同士の話し合いを小まめに行い、直ぐに援助が必要であれば実践して、ケアカンファレンスの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者家族から宿泊の希望があった際、急な場合でも要望に応じている。また、通院の要望にも対応している。その他、食事の時間帯に面会に来られた家族には利用者と一緒には呼ばれたり、喫煙や飲酒などの希望にも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者にとって馴染みの商店街へ出かけ、入居前と変わらない関係性が保てるようにしている。また、町内会に入会しており、町のイベント情報が詳しく解るようになっている。新年の獅子舞や7月の祇園祭の大きなイベントの前には事前に連絡を下さり、毎年の恒例行事を町内の方と一緒に楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を重視した上で決定し、利用者によっては2ヶ所の病院を受診している方もいる。入院が必要になった場合、病院に情報提供し、退院時には診療情報提供書、看護サマリー等をいただいている。	入居前からのかかりつけ医への受診を希望する利用者の場合は、家族等が付き添って受診している。 協力医療機関の医師による月2回の訪問診療のほか、協力医療機関の看護師による週1回の訪問により、利用者の健康管理をしている。 受診結果は電話で家族等に報告するとともに、支援経過記録に記載している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関が月2回の往診、週1回の訪問看護をして下さる他、利用者の容態変化があった際には医師に直接連絡を取り、指示をいただける体制がある。また、デイサービスの看護師にも相談できる体制になっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、できる限り毎日面会に行き、精神面での支えになるよう支援している。その際、病院関係者に情報提供してもらい、早期退院が出来るよう働きかけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談または契約時に看取り体制の指針が整い、ホームで最期まで生活していただく事が可能になった旨の説明を行い、契約者と文書を交わしている。主治医や嘱託医に相談しチームで援助をし、家族への情報提供を小まめに行い、職員間でも緊張感を持って対応し、利用者や家族が納得のいくケアが行えるように支援している。	事業所はこれまで看取りの経験はないが、今後看取りを希望する利用者が出た場合に備え、「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」を作成し、重度化した場合や看取りの体制などを決めている。全ての利用者に指針を説明し、書面で同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は利用者の急変時に備え、応急手当や書記対応に関して日常的に話し合いを行い、月に1回職員全体で勉強会をしている。また、急変時にはデイサービスの看護職員が対応できる体制になっており、対応時はしっかりそれをサポートし、次に活かせるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が中心となり、昼間、夜間を想定した避難訓練を定期的に行っている。地域の人々には運営推進会議を通して区長さんや民生委員さんに協力が得られるよう働きかけを行い、承諾を得ている。	年2回避難訓練を実施し、内1回は夜間想定の避難訓練を実施しているほか、消防署立会いの避難訓練を実施しているが、避難訓練に地域住民の参加を得るまでには至っていない。 避難訓練終了後に防災訓練報告書を作成し、反省点や課題を明らかにして改善に向けた話し合いをしている。 倉庫に粥や缶詰め、飲料水などを備蓄するとともに、一覧表を作成して在庫や賞味期限を管理している。	運営推進会議を通して民生委員や老人会などの地域の人々、地元消防団へ避難訓練への参加を働きかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々に合わせた言葉かけや接し方で支援している。利用者の言動を職員は否定することなく受け止め、何か失敗があった時や排泄誘導をする際などは、周囲に分らないようにさりげない対応を取っている。また、記録物やその他の書類等は利用者や面会者の目に触れないように取り扱いを徹底している。	職員は利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや接し方をするように努め、入浴介助やトイレ誘導時にはプライバシーを損ねない対応に努めている。 広報誌への写真掲載を含め、個人情報の取り扱いについては、利用開始時に利用者や家族等に書面で承諾を得ている。 個人情報に関する書類は職員室の施錠ができる書棚で保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との信頼関係を築いていくなかで、利用者が思いや希望を表せる場面を作り職員が利用者の思いや要望を知るように努めている。おやつや飲み物、入浴や衣服などその都度希望を聞き、利用者によっては選択肢を提示し自己決定の場面を作っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに応じ対応している。ゆっくり寝ていたい、お粥にして欲しい、買物に行きたい、家族に電話したい等の希望にできるだけ即応し、職員側の決まりごとを優先させない援助を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは利用者の好みを聞き職員が援助しながら行っている。男性利用者は髭剃りを毎日自ら行い、帽子等その他の身だしなみにも気を配り生活されている。女性利用者は、洗面台の前で髪を梳かして整髪剤をつけたり、髪を定期的に染めたりされている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲がわくよう盛り付けを工夫し、臭いを嗅いでもらう、味見をしてもらうなど行い食事の準備をしている。食事中は個々の状態にあった援助を行い、食後は下膳やお盆、テーブル拭き等職員と一緒にやっている。また、町内の飲食店から出前を取り食べたい物を選んで召し上がっていただいている。	事業所の栄養士が献立を作成し、材料を発注して事業所の調理室で併設の通所介護事業所とグループホームの食事を調理している。 外食と出前を毎月交互に実施し、利用者の楽しみとなっている。 利用者はできる範囲で下膳やお盆拭き、テーブル拭きなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	詳細にカロリー計算がされた栄養バランスの摂れた献立を提供し、利用者一人ひとりに応じた調理方法、食事形態で提供している。また、水分摂取に関しては特に注意を払い脱水症状が起きないように、1日の水分量をチェックし好みの飲み物を飲んでいただけるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは自分で行える方は声かけ・見守りで対応し、援助が必要な方には利用者個々に合った援助を職員が行い、口腔内を清潔に保てるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンをを把握し、個々の時間帯に応じたトイレ誘導を行っている。尿意、便意のある方には随時援助を行い、ない方には排泄の失敗を極力減らすために、声掛けし援助を行っている。	排泄状況や水分摂取量を記録するインアウトチェック表を参考に、利用者一人ひとりのタイミングに合わせてトイレ誘導するとともに、リハビリパンツを活用して排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日運動を行い、自然排便がされるよう努めている。また、献立に乳製品や食物繊維の多い食品を取り入れ、便秘になってしまった場合には、各個人に処方されている内服薬にて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望やタイミングに合わせて援助を行い、男性利用者の場合、女性利用者より先に入らないと気がすまない場合があり、その配慮を行っている。入浴時は洗えるところは自分で洗って頂き、出来ない部分への援助を行うことを職員間で統一している。	2日に1回は入浴ができるよう支援しており、介護日誌に入浴の実施状況を記載して、利用者の入浴回数を把握している。入浴が好きな利用者の場合は毎日入浴ができるよう支援しているほか、入浴を嫌がる利用者の場合は声かけのタイミングを計りながら入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し昼夜逆転が起らないように、利用者の体調や状態によって昼寝を取り入れ、夜間良眠していただけるようにしている。また、状況によっては居室にて過ごして頂き、休息をしっかり取り取っていただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者一人ひとりが使用している薬の効果・作用を理解し、服薬の支援を行っている。処方の変更された場合は特に、体調変化の確認を細かく記録して、状態把握に努め、体調管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は利用者一人ひとりが役割を持ち、洗濯物たたみ、ホーム玄関の掃除、テーブル拭き、食器、お盆拭き等の生活歴を活かした役割を持っている。また、気分転換に散歩に出かけたり、野菜や花を育てたりしている。室内では自身の好きな活動を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて買い物や外食に出かけている。ドライブは、みんなで参加して頂き、季節を感じていただいている。特に花見の時期にはできる限り毎日いろいろな名所に出かけている。また、近隣の商店にも散歩がてら立ち寄り、地域交流を図っている。	散歩時に近隣の商店や農園に立ち寄ったり、希望にそって買い物に出かけたりできるよう支援している。 年間の行事計画を作成し、花見や筑波山へのドライブなど、月1回から2回は出かけられるように支援している。 車いすを使用している利用者の場合は、併設する通所介護事業所にある車いす対応の車両を利用して外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、利用者によっては所持し、買いたい物がある時は、職員が付添い外出する。買い物に出かけた際は、ご自身が支払う援助をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡を希望した場合、事務室の電話を使用して頂いて、かけて頂いている。年賀状や暑中見舞いなど利用者を書いてもらい、家族との繋がりを感じていただけるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの障子が強い日差しを遮り、利用者が落ち着いて生活して頂くとともに、ソファ等で自由に過ごして頂けるようにしている。廊下は広く、車椅子の利用者が自由に往来でき、風呂やトイレ、廊下など必要なところには手すりが設置され安全に配慮されている。	居間には利用者が制作した書道や塗り絵の作品、外出時の写真などが飾られている。 テレビの前に大きめのソファを配置し、利用者が寛げるよう配慮している。 廊下や風呂、トイレはいずれも広く、手摺が設置されており、利用者にとって安全で動きやすい環境となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室ドアは自由に開閉でき、1人の空間が作れるようになっている。ソファや各テーブルでは利用者同士が自由に会話し、テレビを見るなど思い思いに過ごされている。1人である利用者には、一緒に歌を唄ったり、お手玉をするなどの支援をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が自宅で使っていた布団や家具を使用し、使い慣れた食器や生活用品を持ち込み自身の部屋であることを認識出来るよう、家族にも協力していただいている。テレビやラジオなどを持ち込まれている方もおり、居心地よく過ごせる工夫がされている。	居室には収納スペースが備え付けられており、衣装ケースなどを併用すれば沢山の衣類や寝具を収納することが可能となっている。 利用者は居室にテレビを持ち込んだり、使い慣れた家具を配置したりしているほか、家族の写真を飾ったりして居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段に続くドアや汚物室、浴室等の危険箇所には予め鍵を掛けて対応している。その他のスペースは自由に歩行していただけるようにしている。ベランダには洗濯物や植木鉢等で足元が危険である為、必ず職員が付添い外気浴を行うなど気分転換が図れるようにしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 水海道ケアセンターそよ風

作成日 平成25年12月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議で幅広い意見が得られるよう、民生委員や老人会の代表、地域住民の代表など、多くの人々に参加を呼びかけることを期待する	運営推進会議時に、地元の方にも参加して頂く。	運営推進会議を実施するにあたり、開催の案内文を郵送するだけに止まらず、実施日の前に電話にて参加確認を取ることを行う。	3ヶ月（11月開催の運営推進会議に町内会長に参加いただいた。）
2	10	年2回開催している家族会時に無記名のアンケートを実施するなど、利用者や家族等の意見を汲み上げるとともに、出た意見等を運営に反映させることを期待する	11月10日家族会開催時にアンケートを実施する。また、今後は家族会実施時はアンケートを継続して実施していく。	家族会に参加されない家族には、郵送にてアンケートを配布し、対応する。多くのご家族から回答を得られるようにする。	3ヶ月（12月7日にアンケート結果をご家族宛に郵送いたしました）
3	35	運営推進会議を通して民生委員や老人会などの地域の人々、地元消防団へ避難訓練への参加を働きかけることを期待する	12月の消防訓練時に参加協力を依頼する。	年2回の避難訓練時に、地域の方へ回覧板を配布し、参加協力を呼びかける。消防団の方へは区長さんを通じて依頼する。	3ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。